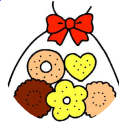


# らじみサラダボール子育て情報



「環境と発達」  
令和4年3月9日号  
板橋富士見幼稚園



## 豊かな環境は知的発達を加速する

乳幼児の健やかな成長を支える最も大切なキーワードは、「環境」です。私たちの暮らしを取り巻くのもまた「環境」です。この善し悪しによって、子どもの発達を遅らせたり、促したりします。そのため、乳幼児期の教育には「環境」が最も大切だと言われています。

大人社会では、暮らしに便利な場や安全な場で、学校や病院などがあり、通勤に利便性の良い場を豊かな環境と考えている人が多いようです。では、幼児期の豊かな環境とはどのような場を示すのでしょうか。



まず、子どもが発達成長していくためには、精神的に豊かで満たされる環境が大切とされます。つまり、『リラックス』できる場が整えられているかということが重要です。自分のしたいことを見つけ、関わろうとする主体的自発性は、ゆったりとリラックスした場から生まれてくるのです。大人が大きな声で号令を掛けたり、やりたくもないことを言ってやらせたりする場は、子どもの心を萎縮させ、心を閉ざさせてしまいます。一度閉ざされた心は、また開くまでに長い時間を要するのです。心をリラックスさせる環境を用意してあげることが第一です。

リラックスした環境の中では『好奇心』が芽生え、目で捉える、耳で聴く、触る、匂う、味わうなどの感覚がひらき、脳を刺激していきます。「わあ、きれい」「いい匂い」「柔らかい」「美味しい」などの感覚が刺激を受けると、考え工夫する『探究心』が揺さぶられて、知的発達が加速します。この探究心がやがて探究力となり、学力観に繋がっていくのです。幼児期は、幼稚園のような集団の豊かな環境の中で、友達と戯れ、貸し借りしたり、共に考えたり、工夫したり解決したりする営みによって、知的さを育てていくのです。

そして最後は『人』、つまり親や教師が大切な存在となります。特に教師については、有能で専門性を十分に学んだ人との出会いが子どもの知的な育ちを支えています。その子の心に共感したり、一緒に場を共有したり、周囲の共を巻き込み共鳴したり出来る教師が、その子の知的な能力を引き出していきます。子どもの興味や好奇心を、大切に育ててあげたいですね。